

公的助成金獲得 事例紹介

協立電化 株式会社



富山県立大学 機械システム工学科
講師 宮島 敏郎

富山県立大学では、公的補助金申請を希望する企業に対し、技術面から申請書作成までの支援を行っており、2年間で10数社の支援実績があります。今回は、平成25年度経済産業省「ものづくり補助金」に採択された協立電化㈱の「フープ（リール品）とバレル（個品）のメッキによる加工」事業についてご紹介いたします。

● 経済産業省 「ものづくり補助金」について

ものづくり・商業・サービスの分野で環境等の成長分野へ参入するなど、革新的な取組にチャレンジする中小企業・小規模事業者に対し、地方産業競争力協議会や認定支援機関とも連携しつつ、試作品・新サービス開発、設備投資等を支援する補助金です。

● 補助率：2/3

● 補助上限額

成長分野型：1,500万円

一般型：1,000万円

小規模事業型：700万円

● 協立電化㈱の事業計画が 採択された理由

協立電化㈱では、フープ（リール品）とバレル（個品）のメッキによる加工を行っております。メッキは、

装飾の他、伝導性、シールドなどの電気特性、耐食性など、電子部品業界のものづくりには無くてならない技術です。小さいものは1ミリ以下のサイズから、多種のメッキ仕様に対応しています。また、製造過程で発生する排水の処理など、環境面にも十二分に配慮した設備を備えています。

今回、協立電化㈱のフープとバレルのメッキ加工技術が、①高精密・高品質化する新技術の製造ラインを導入したこと、②製造工程ラインで部分メッキする金・銀等の貴金属の使用量を少なくしたこと、③自動検品システムを導入していること、④「連続フープメッキのストライプ（線状）」の下工程であるパーツメーカーからのコストダウン要求に対応していることなどが評価され、平成25年度「ものづくり補助金」の採択を受けるに至りました。

「少数多品種」を得意とする協立電化㈱のきめ細かな技術と、機械システム工学科 宮島講師の材料のトライボロジー（摩擦、摩耗）に関する専門知識により、今後更なる技術向上が期待できる事業計画です。



協立電化株式会社
代表取締役

関原 俊和 氏

創業30年が過ぎ、今回の新技術の事業計画が安定稼働すれば、よりコストダウンも可能になる。今後、大学の先生の力を受けて、品質の向上と新規技術開発を推し進め、新規電子部品の受注、そして生産に繋ぎたい。



左から 角尾主任、関原代表取締役、宮島講師

富山県立大学 工学部
機械システム工学科

宮島 敏郎 講師

摩擦・摩耗の研究やそれに関わる材料表面に関する研究、様々な共同研究を基礎に、地域の企業と産学連携で支援できることは教員として誉れであり、今後、お互いにWIN-WINの関係が築くことができるように連携を進めていきたい。